

## 韓・日両国漢字音の対比研究：日本語教育のために

蔡, 京希  
九州大学大学院（博士課程）

<https://doi.org/10.15017/11939>

---

出版情報：語文研究. 66/67, pp.129-138, 1989-06-10. 九州大学国語国文学会  
バージョン：  
権利関係：



# 韓・日両国漢字音の対比研究

——日本語教育のために——

蔡 京 希

はじめに

現在韓国では、漢字の使用が極端に少い故漢字は、余り重要な問題と思わない人があるかも知れないが、実際はそうでない。漢字及びそれに基づく漢語は中国・韓国・日本・越南等に共通に使われるもので、我々がこれらの言語を習う時には漢字から入ると習いやすい。日本語の場合も同様で、韓国人が漢字を覚えておけば日本語を習いやすい。結局日本語教育に於いても漢字・漢語の教育が大事である。漢字漢語さえ分かっていたれば日本語を殆んど知らない場合も意志は通じる。漢字漢語は日本語教育に大きな意味を持っている分野である。曾って、奥村三雄先生は「外国語学習においては、母語と共通な点を見付け出しそこから入るのが有効」と力説したことがあるが、韓日両語の共通性としては、文法的構造の面もさることながら、むしろ漢字・漢語の共通性が注目されるのである。「両国語ともに、漢語の使用率は五割を越える」という事など、考え合わすべきだろう。

韓・日両国漢字音の対比研究については、以前にその体系的な比

較を詳細に試みた事があるが、今回は特にその研究を応用し、「韓国に於ける日本語教育の一環として」、「韓国人に於ける日本漢字音学習の方法」を考えてみたい。

資料としては、昭和56年内閣訓令第1号の「常用漢字表」を扱うことにするが、「常用漢字表」の1945字の中、音読する字のみに限る。

一

韓国語は日本語に比べて音節の数が多い（奥村三雄先生「日本語の特質」によれば、日本語は103、韓国語は250以上と言う）ため日本人が韓国語を覚えるより、韓国人が日本語を覚える方がはるかに易しい。これは、韓日両語の一般的な比較であるが、この事は当然、両国語の漢字音の体系的な差ともなる。そういう意味で韓国人が日本漢字音を覚えるのは、日本人が韓国漢字音を覚える事より楽である。外国語学習でも、他方言を覚える時でも、自分達がヒトツの型としているものをフタツに分けることはとても難しい。（音韻史でも、ヒトツの音韻がフタツに分かれる変化はその逆に比べて少な

い) 例えば、日本人が韓国漢字音を学習する時は、[ka] (歌) と [ha] (河) の区別を暗記する必要があるが、その逆の場合、つまり韓国人が日本漢字音を学習する時は、ha をすべて ka に統一させればよいわけである。ここでは、漢字音対立を「(1) 韓国漢字音でフタツ (またはそれ以上) に区別しているものを日本漢字音でヒトツに統一するもの。(2) ヒトツの韓国漢字音にヒトツの日本漢字音が当てられているもの。(3) 韓国人がヒトツに覚えていないものを日本漢字音でフタツ (またはそれ以上) に区別しなければいけないもの」の如く3分類し、その法則性から、漢字音学習の方法を考えようとする。

(1) 韓国漢字音でフタツ (またはそれ以上) に区別しているものを日本漢字音でヒトツに統一することは易しい。

(1) — 1、[k] と [h] — カ行

「可・歌」は韓国人にとっては [ka] であり、「河・何」は [ha] である。しかし日本語では [ha] を全部「カ」に発音すれば良い。日本漢字音ではどちらでも「カ」である。このようなことを韓国人が覚えるのは極めて簡単である。

(例) 加司歌暇嫁奇価佳稼 [ka] 河何 [ha] カ

距拳抛拒去巨 [ko] 許虚 [ho] キョ

孤雇顧鼓庫固枯故古 [ko] 弧戸 [ho] コ

球救求究旧久九 [ku] 朽 [hu] キュウ

克 [kuk] 黒 [huk] コク

吉 [ki] 詰 [hi] キツ

(1) — 2、[r]、[n]、[ŋ] (李朝音はすべて [r]) — ラ行

李朝漢字音 [r] は、現在使われている韓国漢字音では [r]、[n]、[ŋ] となる。語中に来る時はすべてが [r] となり、i 母音か拗音のような口蓋的母音と結ばれる場合は [ŋ]、それ以外の母音と結ばれる場合は [n] となる。但しこれは日本人が韓国語を習得する場合に注意すべきことで、韓国人はこれらの [r]、[n]、[ŋ] を「ラ行」に当てれば良い。

(例) 羅裸 [na] (ra) ラ

路露炉 [no] (ro) ロ

連恋鍊練 [jon] (rjon) レン

柳留疏流 [ju] (rju) リュウ

(1) — 3、[t]、[tʰ]、[s] — サ行

(例) 諒雌資紫姉刺姿自 [tʰ] 次 [tʰ] 系死思師史私四 [sa] シ

專栓戰錢 [tʰ] 川千泉踐 [tʰ] 先旋線扇宣仙船鮮 [son] セン

祖阻租措 [tʰ] 礎 [tʰ] 疎訴塑粗 [so] ソ

週周舟州 [tʰ] 醜秋 [tʰ] 修秀囚収酬愁 [su] シュウ

贈 [tʰ] 層 [un] 僧 [sun] ソウ

支紙誌旨矢市市至止 [un] 爾 [tʰ] 時侍詩試示視施 [si] シ

(2) ヒトツの韓国漢字音にヒトツの日本漢字音が当てられているもの。

[t], [tʰ] (日本語では有気無気の区別がないため [t] [tʰ] を一つに扱うことにする) — タ行

[k] [kʰ] [p] [pʰ] [tʃ] [tʃʰ] — カ行、ハ行、サ行

(例) 多 [ta] 他 [ta] タ

稲陶悼桃鳥逃到倒刀盗道 [to] 討 [to] トウ

頭痘豆 [tu] 鬪透投 [tu] トウ

得 [tʷk] 特 [tʷk] トク

袋帯待対貸滞代大台隊 [te] 態泰怠胎太 [te] タイ

(3) 韓国人がヒトツに覚えていることを日本漢字音でフタツ(またはそれ以上)に区別しなければいけないもの、には注意すべきである。

(3) — 1、清濁の問題

「他」と「妥」とは共に韓国語では [ta] である。しかし日本語では「他」は「タ」であり「妥」は「ダ」である。

(例) 他 タ 妥打馬太惰墮ダ

破派波把 ハ 婆

バ

[p'a]

[t'a]

河何下夏 カ 賀 [ha]

これは二。の(2) — 1、2、3、4の清濁と関連する。

(3) — 2、[tʃ] [tʃʰ] — タ行、サ行

「朝」と「照」とは韓国語では共に [tʃo] であるが、日本漢字音では「朝」は「チョウ」であり「照」は「シヨウ」である。参考までに李朝漢字音では日本漢字音と同様、「朝」は [tʃo]、「照」は [tʃjo] という明らかな区別があった。

(例) 帳張長腸チヨウ 彰障瘴粧掌章将匠シヨウ

店点テン 占セン

吊彫釣鳥潮朝眺調チヨウ 照詔シヨウ

宙柱駐鑄昼注チュウ 週周舟州シュウ

沈チン 寝針侵侵シン

日本漢字音でも「重」は「チュウ、ジュウ」、「地」は「チ、ジ」の両方が使われる。

(3) — 3、[n] — ラ行、ナ行

「乱」と「難」は、韓国語では共に [nan] であるが、日本漢字音では「乱」は「ラン」、「難」は「ナン」である。但し李朝音では「乱」は [ran] で、現在も語中に来るときは [ran] となる。それ故、我々韓国人が日本漢字音を覚えるときの法則として、語中に来るときは発音を考

えると両方の区別が出来ると思う。

(例) 欄乱卵 ラン 難 ナン [nan]

雷頼 ライ 悩脳ノウ [nwe]

来 ライ 内 ナイ [ne]

(3) 1、4、[ ] ヤ行、ナ行、ラ行

「謡」と「尿」と「了」は、韓国語ではすべて[jo]であるが、日本漢字音では「謡」は「ヨウ」、「尿」は「ニョウ」、「了」は「リョウ」である。李朝音では日本漢字音と同様[jo]、[zjo]となり区別が明らかである。これも覚えるときの法則として語中に来る時の「謡」「尿」「了」はそれぞれ[jo] (ヨウ) [njo] (ニョウ) [rjo] (リョウ) に発音されることを考えると覚えやすい。日本語には語頭語中による変化はない。

(例) 薬約躍ヤク 若ニヤク 略リヤク

余与ヨ 女如ニヨ 旅慮リヨ [jak]

謡窻腰要揺囀ヨウ 尿ニョウ 僚療了リョウ [jo]

裕遊猶有悠誘幽ユウ 乳柔ニユウ 柳留疏流リュウ [ju]

[ ] ア行、ワ行、ガ行

中国字音で、牙音の疑母は韓国語では[ ]、日本語では「ガ行」に反映され、喉音の影母喻母はそれぞれ[ ]、「ア行ヤ行ワ行」に反映される。

(例) 亜 ア 我餓雅芽 ガ [a]

意衣依医イ 議擬儀義疑宜ギ [wi]

宇羽右雨ウ 愚 [u]

腕 ワン頑 ガン [wan]

以上は両国漢字音を体系的に考察したものである。(1)は日本人が韓国語を習得する場合に注意すべきことで、韓国人にとっては非常に易しい。(3)は韓国人にとっては難しい問題であるので注意すべきことである。

## 二

日本漢字音では、入ってきたものはそのまま受け入れられ古音・呉音・漢音・中世唐音・近世唐音になり、韓国漢字音ではほとんど捨ててきて一つの漢字音しか残っていない。「古音」は、「推古期遣文」に出て来る音であり、「呉音」は奈良の時代に朝鮮を経て日本に伝えられた中国の六朝時代(6・7C頃)の漢語の発音で、万葉集あたりの系統や法華経あたりの仏教経典の読みである。「漢音」は奈良朝の末から平安朝にかけて遣唐史や留学僧たちが唐の都(当時の長安・今の西安)で習い覚えてきた唐代(9・10C頃)の標準式の漢語の発音、つまり日本書記あたりでありまた漢音の中でも天台漢音(新漢音)を区別する。今日使われる漢字は漢音読みが主流を成す。「中世唐音」は鎌倉時代、臨濟宗や曹洞宗の系統、「近世唐音」は江戸時代(徳川時代)黄檗宗や曹洞宗のなかでも心越派だけは近

世唐音に入る。心越派は黄檗派に似てやや黄檗系に近い。唐音はすべての漢字にある訳ではなく、鎌倉室町徳川時代に入った文化に限るので比較的覚えやすい。量的には少なく、現在では禅宗に関するものや日常器物、食物の名前などにその痕跡をとどめているのにすぎない。

(例)行脚アンギャ 行者アンジャ 行燈アンドン 椅子イス 扇子セン  
ス 杏子アンズ 和尚オシヨウ 提灯チヨウチン 花瓶カビン 蒲団フト  
ン 羊羹ヨウカン 暖気ノンキ 銀杏ギンナン

これらの音を詳しく分ければ又幾つかに分けられる。これ以外にも「和音」「百性読み」などがあげられる。「和音」は本能的に変化させた慣用音であり、「百性読み」(漢字を旁または偏によって日本流に読むこと)は日本人がかつてに読んだものである。例えば「絢爛」を「ジュラン」、「懶惰」を「ライダ」といったものである。このような日本漢字音の複雑さに対して韓国漢字音は一つしかない。これが韓国人が日本漢字音を習うときが一番難しい所である。どの漢字音をどのような場合に呉音漢音などに読むかがはっきりしない。ある漢字は呉音読みにすることが多く、ある漢字は必ず漢音読みをするというような特定の傾向が決まってしまったものもある。例えば「毛」は呉音では「モウ」漢音では「ボウ」であるが必ず呉音読みをする。呉音漢音は、清濁のように理屈では覚えられない。コトバの世界では習慣がすべてを決定する。これはすべて日本人の言語習慣によるものである。

さて、いずれにしても日本漢字音はたくさんの音読みがある。これは日本だけに限るようである。日本以外の国では一つの音しか持たない。なぜ韓国漢字音は一つの音しか持たないのだろうか。ここで

も理論的な面が考えられるかも知れない。つまり日本では一遍取り入れたものはなかなか入ってこないから大事に残す、韓国では始終入ってくるので捨てる、全部受け入れたら限りが無いという地域的位置や国民性などとも関係が有ると思う。例えば仏教の種類も韓国は大きく二つぐらいがあるが、日本は十幾つかが有るということも関係があるかと思われる。この問題は今は教育に重点を置くから触れないけれども大いに研究する余地が有る。

(1) 呉音で鼻音を保ち、漢音で鼻音を失った形に反映するもの、は次のように使われる。

(1) 1、[m] 呉音マ行、漢音バ行

(例) 摩魔磨麻マ 馬 [ma]

模矛 モ 模暮慕募母ボ [mo]

霧無務武ム 舞無武 ブ [mu]

味末 ミ 美尾微 ビ [mi]

上の例の中で線を引いている漢字は、呉音漢音の両方に読まれる漢字音の例である。ここでは、A、B、ABの印をそれぞれの漢字に付けるが、「A」は使用例が多く主に使われるもの、「B」は使用例が少なく限られたもの、「AB」は呉音漢音が大体同じ比率で使われたもの、を意味する。左の例字の所で示す例字は便宜上「B」の使用例が少ないものに限る。(以下同様)

(例字) 模モ A 武ム B 武者 無ABム 無法、無我  
ボ B 規模 プ A プ 無事、無礼

(1) | 2、[n] | 呉音ナ行、漢音タ行

(例) 難 ナン 暖 ダン [nan]

内 ナイ 内 ダイ [ne]

但し、漢音でも「門モン明メイ(明母)寧ネイ能ノイ(泥母)」のように鼻音を保つものもある。

(1) | 3、[ ] | (李朝音 [z]) | 呉音ナ行(ニ、ネ) 漢音ザ行(ジ、ゼ)

(例) 年 ネン 然 ゼン [jon]

柔 ニユウ柔 ジユウ [ju]

若 ニヤク若 ジャク [jak]

(例字) 柔ニユウB…柔弱、柔和 若ニヤクB…老若

ジュウA

ジャクA

(2) 清濁両音を反映しているもの。

清濁の問題は日本漢字音の学習の場合にも韓国人にとっては一番難しい。これは漢字音に限らず、日本語学習の時に韓国人にとって一番大きな問題である。

(2) | 1、[k] [k'] [h] | 呉音カ行 漢音カ行

(例) ゴウ(拷) コウ(稿考高) [ko]

グ(具) ク(驅句区久九口) [ku]

ゲン(弦玄現) ケン(顕懸具賢) [hjn]

ギ(戯穢) キ(希喜輝) [hwɨ]

[h]の匣母の合口は呉音ワ行(gw↓w)になる。(例)和ワ、クワ [hwa]

(2) | 2、[t] [t'] | 呉音タ行、漢音タ行

(例) ドウ(堂) トウ(糖党唐当) [tag]

ドン(鈍) トン(屯) [tun]

(2) | 3、[p] [p'] | 呉音パ行、漢音パ行

(例) パン(盤) ハン(繁煩藩) [pon]

ボン(盆) ホン(奔) [pun]

ピ(備) ヒ(飛卑非比鼻匪費秘) [pi]

(2) | 4、[t] [t'] [s] | 呉音サ行 漢音サ行

(例) ソウ(造) ソウ(曹早燥遭操) [tʃo]

ジュウ(充) シュウ(衡) [tʃug]

ジョ(叙序助) ショ(署緒暑庶書) [so]

一方、日本漢字音資料で濁音で示したものはしばしば清音になる。

(例) 被ヒ虫チウ(チュウ) 渠コ唇シン殊シュ巷カウ(コウ)

これらは習慣的にある漢字は呉音読みをし、ある漢字は漢音読みをするというレベルの問題であるのでとても判断に苦しい。またこ

れは一。の(3)―1、の清濁の問題と関連する。

《体母音》

体母音は非常に複雑であるので考察には困難が伴う。体母音は決まったこれという規則を見付けにくくかなり散発的であると言えらる。この体母音の対立を前述の頭子音の所のごとく3分類の方法にしたがって考えてみたい。

- (1)―1、[i] [wi] [we]―「イ」
- [i] 飛非末尼費知地值汽期支旨時移以里耳 イ
- [wi] 議擬儀疑宜希喜輝戲犧意衣依医 イ
- [wi] 貴鬼婦危偽揮緯遺慰違胃委威匪位 イ
- [we] 机軌 イ
- (1)―2、[we] [ε]―「アイ」
- [we] 退壞拐怪塊懷罪最催会灰回悔雷頼 アイ
- [we] 快碎 アイ
- [ε] 排背倍枚每売待大台太開才再害愛来 アイ
- (1)―3、[a] [wa]―「ア」
- [a] 破派把馬多他妥太加歌伽仮雅茶詐賀裸 ア

[wa] 寡菓科果渦左座火化靴貨華花画話和 ア

(1)―4、[e] [je]―「エイ」

[e] 提弟締体憩揭製齊勢世歳税 エイ

[je] 閉弊陛弊係鷄計契惠銳隸例禮 エイ

(1)―5、[o] [jo]―「iヨ」

[o] 著貯緒距拳抛居去漁御魚庶書序助許虚 iヨ

[jo] 余与旅慮如女 iヨ

(1)―6、[u] [ju]―「iユウ」「ウ」

[u] 甬柱昼旧牛周醜囚収朽憂友郵鏹丸 iユ

[ju] 浮赴負父部不符霧無武頭九口愚羽雨 ウ

[ju] 糾体裕遊猶有悠誘幽由柳留疏乳柔 iユウ

留流 ウ

(1)―7、[o] [jo]―「オウ」「iヨウ」「オ」「iヨ」

[o] 宝報泡毛帽島倒刀考高草驗好号豪輿芳老 オウ

[jo] 鳥朝超挑挑紹消召少小条 iヨウ

保歩沛模矛母徒都土奴怒孤古呉午五祖素粗戸護互汚路妒 オ

兆所虜 iヨ

[jo] 交絞功郊校酵効考凹

妙描尿教稿矯曉誼要窯腰搖曜僚了苗猫

慕

(2) 1、[ja] | 「ヤ」

[ja] 野夜 ヤ

(2) 2、[w] | 「オ」

[wk] 得特克即側測黒 オク

(2) 3、[wo] | 「エ」

[wo] 月越 エツ

さて、韓国人がヒトツに覚えていることを日本漢字音でフタツま  
たはそれ以上に区別しなければならぬもの、の例として

(3) 1、[a] | 「ア」 「イ」 「イヤ」

韓国漢字音の体母音[a]は日本漢字音では「ア、イ、イヤ」となる。

韓国漢字音の [ka] [ha] は「カ」、[na] は「ナ」、[ta] [t'a] は「タ」、[ra] は「ラ」、

[ma] は「マ、バ」、[pa] [p'a] は「ハ」(ホもみえるが頭子音の性格によるも

の)、[a] は「ア、ガ」になり、これは主に「ア」に反映するが、日本

漢字音の歯音半歯音では次のように「サ、シ、シャ」に反映する。

オウ

i ヨウ

オ

[sa] 賜飼嗣思詞師始司史仕士私四伺糸死

唆詐砂査

謝写斜捨赦射舍事社砂

[tja] 謔雌資紫姉刺姿子自

煮者

[tja] 次

差茶

遮

[a] 兒

(李朝音)

[sɐ]

[sa]

[sja]

[tʃɐ]

[tʃja]

[tʃɛ]

[tʃa]

[tʃja]

[zɐ]

この区別は頭子音や介母・等韻などがからみあっているので非常  
に難しい問題であるが、李朝漢字音でも日本漢字音の「ア」母音は

[a] に、「イ」は [ɛ]、「イヤ」は [ja] に反映するなど区別を保っている。

これは中国語の音韻史にかかわる問題であるので、ここでは事実を  
確認するにとどめる。

(3) 2、[ɔ] | 「i ヨ」(漢音、(1) 5 参照) 「エイ」 「アイ」

体母音 [ɔ] を「エイ」(漢音)に読むか、「アイ」(呉音)に読むかは、  
日本人の言語習慣によるレベルの問題である。

[ɔ] 低底抵邸誓婿逝西 エイ(漢音)

妻西 アイ(呉音)

オ

[j]麗辰励

エイ

女

iヨウ

(3) | 3、[o] | 「オ」 | 「オウ」 | 「iヨウ」 | 「iヨ」 | (1) | 5 参照) 「ウ」  
体母音 [o] は (1) | 5 でみるとおり複雑な反映を見せてくれる。また  
「苦、庫」が「ウ」にあらわれる等、唐宋音の反映もうかがわれる。  
(呉音とも考えられる。呉音「ウ」)

[o] 苦庫、普富婦附步怖布 ウ

[jo] 敏 エ

較 アク

(3) | 4、[u] | 「iユウ」 | 「ウ」 | (1) | 6 参照) 「オウ」 | 「オ」 | 「iユ」  
「ユ」 | 「ウウ」 | 「ウイ」 | 「イ」

[u] 剖質頭痘豆鬪透投購構溝拘口奏走搜後倭后候厚漏樓  
簿茂斗頭後 オウ  
主酒珠修殊首狩樹寿需授受 オ

輸 ウ

隅遇偶椽数 ウウ

墜追錘推随穗遂睡帥粹垂獸髓 ウイ

否 イ

[ju] 癒諭偷由油遊 ユ

唯唯 ユイ

規唯維 イ

幼 ヨウ

(3) | 5、[e] | 「エイ」 | (1) | 3 参照) 「アイ」 | 「iヨ」 | 「エ」  
[e] 題第弟体替速切細歳 アイ

諸除

iヨ

弟瀬

エ

[j] 廢肺戒界階械禮

アイ

誉預矛

ヨ

季

キ

(3) | 6、[i] | 「イ」 | (漢音) 「エイ」 | 「エ」 | 「オ」 | 「アイ」

[i] はほとんど「イ」に反映される。(1) | 1 参照)

[i] 迷米泥 エイ

氣施是 エ

己暮 オ

米 アイ

両方) \*「・」の印がついてある漢字は「イ」とも読める。(漢音読みと

(3) | 7、[wa] | 「ア」 | (漢音) 「エ」 | 「オ」

[wa] はほとんど「ア」の漢音に反映されているが (2) | 1 参照)

「化・華」等は呉音読みを反映して「エ」となり、「誇・和」は唐宋  
音読みを反映して「オ」となる。

[wa] 化華 エ (呉音)

誇和 オ (唐音)

\*「・」の印がついてある漢字は漢音読みあり。

(3) | 8、[we] | 「アイ」 | (漢音、(1) | 2 参照) 「エ」 | 「オウ」

[we] 会回絵 エ (呉音)

脳腦 オウ

\*「・」の印がついてある漢字は漢音読みあり。

(3) 9、[wi]「イ」(1)「ウイ」「iyu」「iu」「エイ」

[wi] 醉吹吹 ウイ

就臭 iyuu

趣取就 iyu

衛 エイ

(3) 10、[E]「アイ」(漢音、(1)「ア」「イ」「オ」

[E] 霸太駄箇 ア (吳漢音)

魅 イ

個 オ (唐音)

以上は、中国原音の複雑さをよく見せてくれるすがたと云える。また、日本漢字音は、末子音による影響から母音がすがたをかえらう。段階の音韻を反映しているので、その区別にまた難しさをともなう。

たとえば、中国音尾 m-n-ng (p-t-k) は、

ak 膜濁諾覺樂作学惡落 [ak] アク

an 反万短難于眼山漢安乱 [an] アン

at 発抹脱唱殺割 [at] アツ

am 甘岩暫含暗賢 [am] アン

ang 方妄堂湯江相項央郎 [ang] オウ

ap 答納維合押 [ap] オウ

納維合押 アツ

のように、韓国漢字音は末子音に係りなく、[a]に反映されているが、日本漢字音では末子音 ng-p の付く時は、「ア」母音が「オ」母音に変わる。ng が付く場合はすべて「オ」母音になるが、p が付く場合は「オウ」「アツ」両方となる。

注「韓国漢字音の重層性」日本漢字音との比較対照を中心に」(「語文研究」第64号1987・12)

\* 参考文獻 \*

山田孝雄『国語の中に於ける漢語の研究』寶文館、S 15 藤堂明保『漢語と日本語』秀英出版、S 44 『大漢和辞典』大修館書店、S 35 『広辞苑』岩波書店、新村 出、S 30 『日本語読み辞典』図書出版、金榮振、1979

奥村三雄『日本漢字音の体系』(訓点語と訓点資料、第四輯)、S 31

高松政雄『日本漢字音の研究』風間書房、S 57

沼本克明『平安鎌倉時代に於る日本漢字音に就いての研究』武蔵野書院、S 57

湯沢質幸『唐音の研究』勉誠社、1987

〈韓国漢字音〉

有坂秀世『漢字の朝鮮音について』(国語音韻史の研究)三省堂、S 32

河野六郎『漢野六郎著作集』平凡社、1979

朴柄采『古代国語研究』高麗大学校出版部、1971

辛容泰『韓国漢字音の母胎に関する考察』国際大学人文科学研究第一輯、1982